



平井權八一代記

拾拾拾
五四三

~ 13
3365
7止



13
3365
7

平井権八一代記巻の終三



目録

大正十年八月廿九日
本大學出版部 贈

一 男伊達井田仁之助宛那の事

一 権八情陸を院長を侍りて

たはね来る事

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

平井権八代龍巻の巻之三

平田仁孝法とのあき事

志らすも懐陸を流長き流国事ありして産儀等
 とくしと通しつるふ所方ひあらうとたのしむなり
 なすも志らふもあらうなりやと承る事とも
 ゑしむ事ともいふ事ありしなり(心)事同事なり
 うしむ事ともいふ事ありしなり(心)事同事なり
 同及しとる事ともいふ事ありしなり(心)事同事なり

志らすも懐陸を流長き流国事ありして産儀等
 とくしと通しつるふ所方ひあらうとたのしむなり
 なすも志らふもあらうなりやと承る事とも
 ゑしむ事ともいふ事ありしなり(心)事同事なり
 うしむ事ともいふ事ありしなり(心)事同事なり
 同及しとる事ともいふ事ありしなり(心)事同事なり

と見えしや世にいたるしきり言に世にるそ
後市々谷々人として南力とていふるがあらざる
みあせどのみあふまゝ世にたきつて物にたお
せし世にるふ群衆の中の大徳の是物とまきつる
男見て居るるがその道通ふ人よりはうづ遠き
松ふたす水地及よま平ふらういあゆみのぬ
この大男見して来世とていふ世にたうとていふ
人の中にとていふ世にらういひ見ると井田仁義あり
是年三つ入りあ世とていふ日廣徳とていふとていふ

せさせし世にたうとていふ世にたあせどのみあせ
ぬに目もよみいひ見して居る世にるが打出の
せんせしてはたの居んふらういひ居るの仁義が
あつとていふにきつるふ地通し通しより牛込
四つめり世にるし相田町九ぞんとていふ徳持院
のつあふまゝししころいひもや日言ふふらういひるが
仁義清し世にたふらういひもやいひるが
ひら世にるふもよみいひもたあせも人方なくぞ日におる
水地どのとていふしきり言とていふしきり言

あつらひのなほはまゝいふまゝとゆふらちの切つゝ
何れもなほなほなほなほなほなほなほなほなほ
く切つゝ世よりあつたも世も世も世も世も世も
なほなほなほなほなほなほなほなほなほなほ
何れもなほなほなほなほなほなほなほなほなほ
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
やうなうらなうらなうらなうらなうらなうらなうら
捨つゝ所が芝居ふたいてあつたのさききの下せき
長りるが菓子なごつゝうらなうらなうらなうらなうら
今日か

つ世も世も世も世も世も世も世も世も世も世も
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
わうやうやうやうやうやうやうやうやうやうやう
よーよーよーよーよーよーよーよーよーよーよー
かくふはたなるをなほなほなほなほなほなほなほ
とやう世も世も世も世も世も世も世も世も世も世も
の返れなほなほなほなほなほなほなほなほなほ
世一あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

集ふらぶ〜^{いんげん}科^か理^りとあるうらんしりせりる
ゆゑ^{ゆゑ}知^ちはらしてゆ^ゆせ^せふり〜^{いんげん}科^か理^り

私^{わたくし}曰^{いわ}せ^せい^い水^{みづ}野^の及^{およ}何^{なに}やぶ^ぶの^の神^{かみ}徳^{とく}祖^そとを
六^む指^さ八^{はつ}あ^あ〜^{いんげん}科^か理^りとあるうらんしりせりる
七^{しち}大^{だい}さ^さふ^ふと^とぢ^ぢと^とあ^あ〜^{いんげん}科^か理^りとあるうらんしりせりる
口^{くち}の^の神^{かみ}徳^{とく}祖^そとを
と^とき^き〜^{いんげん}科^か理^り

権八長き流〜^{いんげん}科^か理^り

去^きる^るぞ^ぞい^い長^{なが}き^き流^{りゅう}い^い〜^{いんげん}科^か理^り
そ^そう^う〜^{いんげん}科^か理^りとあるうらんしりせりる
権^{けん}八^{はつ}あ^あ〜^{いんげん}科^か理^りとあるうらんしりせりる
〜^{いんげん}科^か理^りとあるうらんしりせりる
上^{かみ}方^{かた}の^のが^が〜^{いんげん}科^か理^りとあるうらんしりせりる
み^み〜^{いんげん}科^か理^りとあるうらんしりせりる
と^とり^り〜^{いんげん}科^か理^りとあるうらんしりせりる
あ^あ〜^{いんげん}科^か理^りとあるうらんしりせりる
と^と〜^{いんげん}科^か理^りとあるうらんしりせりる

ら世はまゝの〜の富〜の〜の國を告ぐ
あ〜の〜の〜の國〜の〜の流を
兼〜の〜の〜の〜の流を
長き流も一度に流を〜の〜の流を
づ〜の〜の〜の〜の流を
好む〜の〜の〜の〜の流を
ほ〜の〜の〜の〜の流を
よ〜の〜の〜の〜の流を
今〜の〜の〜の〜の流を

権八の〜の〜の〜の〜の
同〜の〜の〜の〜の〜の
〜の〜の〜の〜の〜の
〜の〜の〜の〜の〜の
〜の〜の〜の〜の〜の

平井権八代龍巻の権三
平井権八代龍巻の権四

- 一 権八圓皇の風俗寺入るの事
- 一 平井権八代龍巻の権三



三巻一書

并 詩世の事

平井権八代記巻の指田

権八目是陸川かづのせきくく事

さる極小権八の長き湯うことたち出くをせう陸
川くくめあき井あき舎あきくくくくくくくくくくくくくくくく
てなごぶらる備佐を沈もなごぶらる備佐をあき
もなごぶらる備佐を沈もなごぶらる備佐をあき

日さるるかして権八目是あひせうして同記の
とらくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
つりてあき等のたのくくくくくくくくくくくくくくく
手袋がはあきのたのくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
名のくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
平井権八くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
おやめくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

尺也〜形うきうき〜なつめんおなづき
今生いまのよろこびも母ははのこゝろも母ははのこゝろも母はは
よもな〜〜いふ家いえの四よの四よもなま〜
母ははととも〜一通り一皮いは落おちすと作しり
形かたち〜口くち終はの生なまの何なにもなま〜
よ〜金子かね指ゆびあ〜し母ははの思おも業わざ不ふ淨じやうの令れい
子こと〜いむさきお膝ひざのハはああのた〜いは
やも形かたち〜母ははのこゝろも母ははのこゝろも母はは
ハ母ははのこゝろも母ははのこゝろも母ははのこゝろも母はは

大坂後人おおいさかごじん〜いとげと持もちや〜
そ母はは〜いちやうの事こと〜いの人ひとと教し〜
金子かねと〜いび〜いの〜い極ごく悪あくの
徳とく也なり〜い〜い母ははの思おも業わざ不ふ淨じやうの令れい
形かたちの落おち〜い〜いの思おも業わざ不ふ淨じやうの令れい
母ははを陸りく川がわに〜い院いん〜い今いまの思おも業わざ不ふ淨じやうの令れい
石川いしかわ右みぎ邊への〜い〜い末すえ末すえを夜よ
母はは〜いの方かたの〜い極ごく悪あくの死し〜い
〜いの〜い〜い〜い

今子と交納ありては槍八大きふよりおびても
しや口の肉やぐりて冠なく終身のみまきおら
ゆたうりと名ごうしれくもまき出りら

槍八甲斐元度四返右の海出る事

さるあても情任せ流長き糸ハ槍八がせら出
あしより志をひてたふ同まきとてまき槍八自ま
ま出りあし尋すの川ふたのめんて槍八のふ
どらしく四返法ハ四はまき有てしむ私と名寄の

解くとたし一たるりのふらに今度死後おいきり死
骸の美当四半ハ四くむらめきとてとれしむら
志うらふ事并槍八今いふらうらも七形一正羽
二重のあつそふらうのめんの羽織丹後羽のまきま
若圃して甲斐元度冠経も度四返右の出る私
り先以六返四返右へ死出因へてなすしあうし
ゆふ今生と一ふらうの用ハ四返右の海出る事
宿より出事作り目事相うらばけいしつと今
又四返右とむ相らしむら母の種め世がせま

昔は河相きりも死をいとひらりしむらふ能く後
さしひりし一筋の根子奪のこ先達しめしり
世一日本庄八竹永も備つとよびおし出り言
のうそいふれきりぬ世をぞづ宰者おかせ付
ら世たり

竹八四仗三皇の事

竹永中書(備) 日本庄八四仗三皇の事

形く四洋定相きりしこころししを四はまあるべし

て九月廿七日ふれが最ぞむ世りる平井竹八
生年記指あり科のひき紙めがとりし書き
られしりちて世とまひあさりり人使の役人
るよりして江戸中とすしを竹永本庄も同様なり
見ぬの半後男女もふまきひらびたる平井と見え
とろゝ巻のこころいふ川もそ何方人としわかざり
たるも竹八日本国因情の國も右と親ふ六百石と成
して一詩のさむいふさうこころいふ心の送ひとてか
あさひしも死とともらむいふさうこころいふ書の

見おの人るよの権八と見るふりておせむとひたさ
英男むらじふりや世よまふ人相あひまの天地てんちの遠とほひ万能
一ふといはたまふ人おきまゆりすと諸人しよじんの世を
まよきりるひつごのあめおどかしくとんた
か林はやしふりうりうぶる上より引たらしとんた
おしやうとよ海うみのしりうりやきまきり秋の
屋やもふりまよひて様さま多たの世よといひあうり
とるをきりて平井ふむりてはきりる権八と
そのの志こころ腹はら浅あはくぬのあてもお丸お井の家の

りん毎まいのしんごの改令かいはん東ひがしへおとせおのんたり
と世よの山やま紫むらさきのりんとて改本かいはんの権八とひら
ふりうりまよとちまを志こころむりてまよりよ様さま多た
その附誌つけしとひらうり田いり方かたとまふて見みこころ見
おの流ながへふむりひいふおぬうていひふむり
その世よを世よぐりて日本にっぽん國くに生なま國くにまふ世よとふりて世よを
大要たいよう人ひと形かたちうたひま世よの名なごりぬりておぬのま
り七十七葉しちじちふたの杖つえめえりて人を教しんへるまのまふ世
よのひりくはくまふ年としのちま世よと州しゅうのびりて

平井権八一代記巻之指四終
平井権八一代記巻之指五

目録

- 一 目録比翼の坂由来の事
- 一 情陸を沈長を沈定形の事

平井権八一代記巻之指五

目録比翼の坂の事

志うらふと浦屋の小紫い良季あやそみのものお
 や里ふ店て権八が四は色のやれどらまわ
 とまげもいぐ防すんそちしてよく款そあま
 ら店をうーが権八が初七日ふあやらとはてはき人
 つせて目黒の風呂寺へ移きまうらぶる中平井
 権八よのが世ぬゆうりののそ四社いこのケビ
 一四角ころそ異葉りも世はよーうけをまうら
 ても右うぐーくそいりあも果初七百ふあや
 ぬそそ入らいはい世は心まうらの四向料してな

わくしてぞんずの院長きまのこまにだつてあはれ何は東
傍のき居て水野十之清どのふゆと一日限も
ぬくも世もくく下のみふらひのよとよびありあも
いふ世もるの今日あ神居のよし存もふらひくく
ぬくも世もくく下のみふらひのよとよびありあも
きす世もくく下のみふらひのよとよびありあも
いざしてまやの海一移るるふ遠まの世も
あふのよのよとよびありあも
や海一すのいひ世もくく下のみふらひのよとよびありあも

比真いさのたすうといひこれんもわかすび付とひてある
り法用ちゆうぶのさうたふらひもむらひあはれ世も今日
ハ時ときいよ木欄たてとりもちてまらるる別家死しが
とよびありあも
あるもくハ兼せき忽いつの事いあるもとよびありあも
と長ちやうの清制せいせいいふたふらひもむらひあはれ世も
の世もくく下のみふらひのよとよびありあも
あふらへら世もくく下のみふらひのよとよびありあも
十之清じゆしゆあみの屋やいふたふらひもむらひあはれ世も
情じやう性せいを院いん

しつとやき母を十き湯どの世評判江戸中
らるる公使ふきつて遠急お七はり母ら
後年終ふ切腹のみ以世家判絶ふ及びり世
今ふいそつと世き湯がその名をらむじり治り
とねりあたり

本井権八代記巻の終り 大尾

本井権八代記七冊全部

天保七申年夏之次
從下尾得之

正保
正恒
写之

